

(別紙様式2号 別添)

都県内における推進事業取組実施状況一覧表

取組名	事業実施主体名	計画策定時	事業実施後(目標年度)		目標(令和元年度)		事業費(円)	負担区分(円)				目標達成状況 B/A×100	事業主体等による評価結果	都県による点検評価結果(所見)
		被災前 22年度	実績値	事業実績	目標値	具体的な事業内容 (計画)		交付金	都県費	市町村費	その他			
自給飼料生産・調製再編支援	農事組合法人福島未来農業生産組合	平成22年度 WCS用稲 23ha 飼料用トウモロコシ 0ha	令和元年度 WCS用稲 45.6ha 飼料用トウモロコシ 3.5ha	汎用型飼料収穫機 1台 ラッピングマシン 1台	令和元年度 WCS用稲 50ha 飼料用トウモロコシ 8ha	汎用型飼料収穫機 1台 ラッピングマシン 1台	23,181,599	10,732,000	6,976,000	0	5,473,599	91.2%	<p>目標は概ね達成することができた。</p> <p>地域の主力が水稲であるため、WCS用稲は目標どおり面積が拡大したが、飼料用トウモロコシは獣害対策の面で敬遠されやすい作物であることなどから、なかなか取組が浸透しなかった。今後、畑地を中心に農地を集約していき、飼料用トウモロコシの作付面積拡大に取り組んでいく。</p> <p>また、稲WCSを栽培する耕種農家の技術と、生産調整する我々コントラクターの技術が、少しずつではあるが向上してきており、安定した飼料生産が可能となってきた。</p> <p>しかし、機械老朽化による修繕費が増えてきており、今後は機械の更新等が課題である。</p>	<p>作付面積は45.6haとなり、目標は概ね達成された。</p> <p>県としては、飼料用トウモロコシ畑の作付目標面積達成に向け、電気柵設置・管理徹底によるイノシシの獣害対策を推進する。併せて、高品質粗飼料調製に向けた指導及び助言を行い、作付面積の維持・拡大を誘導することで、営農活動の回復を支援する。</p>
自給飼料生産・調製再編支援	株式会社フレリスラテ	平成22年度 牧草 0ha	令和元年度 牧草67.7ha	ラッピングマシン(パール縦起こし装置付) 1台 ジャイロレーキ 1台 ディスクモア 1台 マニユアスプレッダ 1台 ロールベアラー 1台 バキュームカー 1台	令和元年度 牧草 55ha	ラッピングマシン(パール縦起こし装置付) 1台 ジャイロレーキ 1台 ディスクモア 1台 マニユアスプレッダ 1台 ロールベアラー 1台 バキュームカー 1台	20,012,400	9,265,000	6,022,000	0	4,725,400	123.1%	<p>農地の利用集積が進み、作付面積は目標を達成した。</p> <p>しかし、作付け以前がかなりの荒地地だったために、堆肥散布等により土壌改良に努めたが、なかなか収量の成果が出なかった。また圃場には大きな石礫が多く、作業機の破損の原因となるなど、作業に大変な労力を要した。</p> <p>今後も長期的な視点で地力の向上と圃場の整備を行い、自給飼料増産に取り組んでいきたい。</p>	<p>作付面積は67.7haとなり、目標が達成された。</p> <p>今後も作付面積の維持、拡大のため、引き続き安定的な自給飼料生産を推進し、営農活動の回復を支援する。</p>
-	-						43,193,999	19,997,000	12,998,000	0	10,198,999	-	-	-

(注) 1 別紙様式1号の別添1に準じて作成すること。

2 「都県による点検評価結果(所見)」には、都県としての事業実施主体ごとの目標達成状況に関する評価を記載するとともに、目標未達成の場合には改善措置の指導の必要の有無を含めた今後の改善指導方針を記載する。